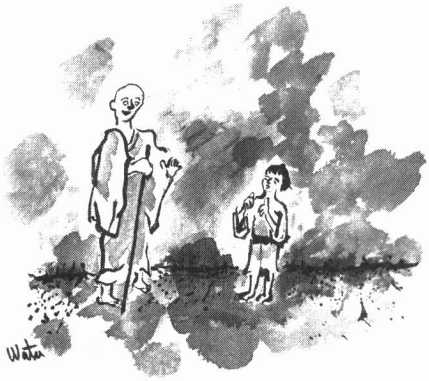
少年に、通りかかった同じ村の人が、
「梅、どこさ行く。」
とたずねますと、
「冬は青々としていて、夏枯れる草を刈りに行く。」
と答えたといわれ、三歳のころから季節のうつりかわりを知っていたという言い伝えが残されています。

また、五歳のころのこととして、こんな話も伝えられています。

小平潟の村を通りかかった旅のお坊さんが、道ばたでひとりで遊んでいた梅少年をみつめて、
「お前に、このあまいイチゴをやろう。」
と、ふところからイチゴをとり出してあたえると、